

やなぎみわ展 神話機械

MIWA YANAGI : Myth Machines



《女神と男神が桃の木の下で別れる：川中島》(部分) 2016年

1990年代から現在に至るまで、現代美術のみならず演劇界でも忘れられないアートシーンを毎回創り出してきた美術家やなぎみわ(1967~)。《エレベーター・ガール》で注目を浴びたやなぎは、《マイ・グランドマザーズ》や《フェアリー・テール》といった一連の写真作品シリーズで世界的に評価を受け、2009年には第53回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表となる一方、翌2010年には本格的に演劇プロジェクトを始めます。大正期の日本を舞台に、新興芸術運動の揺籃を描いた「1924」三部作で話題を集めるほか、特に台湾製のトレーラー車を母体に2016年から日本各地を巡礼する野外劇は大きな感動を与えました。その舞台作品と並行し、日本神話の物語をモチーフに、福島市内の果樹園で桃を撮影した新作シリーズを制作しており、今回、これらをまとめて、日本で初めて発表します。また本展に向け、京都、高松、前橋、福島の大学等と連携した「モバイル・シアター・プロジェクト」が立ち上がり、マシンによる神話世界も展覧会場に生み出されます。このマシン制作に本県からは、福島県立福島工業高等学校の生徒が携わっています。美術と舞台の両極を往還することで生まれるやなぎ作品は、スペクタクル性とドキュメンタリー性が交錯し、虚実を幾重にも越境していくものです。待望された約10年ぶりの本個展では、これまで以上にやなぎの汲み尽くせぬ創造の泉に迫ります。

担当・お問合せ

荒木康子 araki.yasuko@fcs.ed.jp
橋本恵里 eri.hashimoto@fcs.ed.jp
大北 孝 okita.takashi@fcs.ed.jp

福島県立美術館 〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
Tel: 024-531-5511/ Fax: 024-531-0447



福島県立美術館
Fukushima Prefectural Museum of Art

やなぎみわ展 神話機械

MIWA YANAGI : Myth Machines

会場： 福島県立美術館 〒960-8003 福島市森合字西養山1番地 Tel: 024-531-5511 / Fax: 024-531-0447

会期： 2019年7月6日(土)～9月1日(日)

開館時間： 9:30～17:00 *最終入館は16:30まで

休館日： 月曜日、7月16日(火)、8月13日(火) *ただし7月15日(月)、8月12日(月)は開館

観覧料： 一般・大学生＝1,000円(800円) 高校生＝500円(400円) 小・中学生＝300円(200円)

* ()内は前売券、および20名以上の団体料金／前売券は福島県立美術館総合受付にて7月5日(金)まで販売

* 身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方は、企画展・常設展ともに無料

(身障、療育手帳については第1種、保健福祉手帳は1級の場合、付き添いの方1名も無料)

主催： 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ

協賛： ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、JAふくしま未来、JAグループ福島

助成： 芸術文化振興基金

協力： 京都造形芸術大学、香川高等専門学校、群馬工業高等専門学校、福島県立福島工業高等学校、

京都工芸繊維大学 ROBOCON挑戦プロジェクト、一色事務所、堀内カラー、

被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会

企画協力： 一般社団法人MIWA YANAGI OFFICE

関連イベント

ライブパフォーマンス『MM』 *本プロジェクトはJSPS科研費JP17H00910に関連する作品です。

構成・演出： やなぎみわ / 出演： 高山のえみ / 音楽： 内橋和久

日時： 7月13日(土)・14日(日) 19:30開演(19:15開場) 上演時間約1時間 / 場所： 企画展示室 / 各回先着90名

料金： 一般・大学生＝2,000円 高校生＝1,000円 *展覧会観覧券付き、展覧会観覧割引・無料となる場合も左記料金

*5月25日(土)より美術館総合受付にて販売・電話予約可

*未就学児童のご入場はご遠慮下さい。

やなぎみわトークショー

日時： 7月6日(土) 14:00～ / 場所： 美術館講堂 / 聴講無料

講師： やなぎみわ氏 / 聞き手： 早川博明(当館館長)

ロボット教室

日時： 8月3日(土) 13:00～16:30 / 場所： 福島県立美術館、福島県立福島工業高等学校

講師： 福島県立福島工業高等学校教諭 吉田健氏

対象： 小学校5年生～中学生、先着10名(保護者同伴可) / 要申込 / 無料

内容： パソコンを使って簡単なプログラムを作り、LEDを点灯させる体験をします。

触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ 「神話と機械を見聞きする」

日にち： 9月1日(日) / 要申込 / 無料

講師： やなぎみわ氏、当館学芸員

内容： 見えない人、見える人一緒に、触ったり、音に耳を澄ませたり、話したりしながら、やなぎみわの神話機械、神話の世界を鑑賞します。内容の詳細、申込要領は、福島県立美術館ニュース2019年8-9月号か当館ホームページをご覧ください。

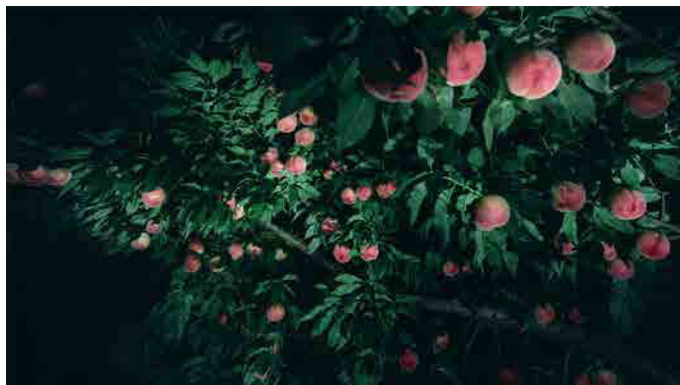
担当学芸員によるギャラリートーク

日時： 7月27日(土)、8月10日(土) いずれも15:00～16:00

*観覧券をご購入の上、企画展示室入口にお集まり下さい。

本展の特徴

1. 2010年より舞台制作を中心に活動を行ってきたやなぎみわの**約10年ぶりとなる大規模個展**。
福島県立美術館では、2010年開催のグループ展「胸さわぎの夏休み展」に出品して以来の展示。
2. 東日本大震災以降、**2016年から福島市内の果樹園で撮影してきた**、日本神話と桃とテーマにした写真シリーズ《女神と男神が桃の木の下で別れる》をまとめて日本で初展示。



《女神と男神が桃の木の下で別れる：まどか》(部分) 2017年

これまで社会と深く関わりながら作品制作をしてきたやなぎが、震災後に新たに取り組んだテーマが「桃」だった。それは『古事記』の中に登場する**国生みの神、イザナギノミコト(男神)とイザナミノミコト(女神)の物語**に由来する。二人の別離の原因はイザナミが産み落とした火の神。火の神を産んだがために、イザナミ(女神)は亡くなる。死と生、暗と明の間で引き裂かれた二人。イザナミ(女神)に追われるイザナギ(男神)を死から生へ、暗闇から明るみへと引き戻す重要な役割を果たしたのが、その境界に植えられていた桃の果実だった。イザナギはイザナミに向けて桃を投げつけ、生の世界に帰還した。イザナギはその後、多くの神を生む。私たちが今いる現在、その果てに辿り着いた世界に他ならない。この作品群は、そうした桃の文化史的、歴史的な意味を、福島の「夜の桃園」から紐解き、火の神とともに生きざるを得ない人間の運命をあらためて考える重要なシリーズである。

3. 本展に向けて約1年前から、やなぎと京都造形芸術大学、京都工芸繊維大学、香川高等専門学校、群馬工業高等専門学校、そして**福島県立福島工業高等学校**が連携協力する「モバイル・シアター・プロジェクト」が立ち上がり、展覧会場には、制作された**マシン4機が、古代ギリシャ神話、ウィリアム・シェークスピア、20世紀東ドイツの戯曲家ハイナー・ミュラーなどの戯曲の一場面を演じる、前人未踏の展示空間《神話機械》**が現れる。



《神話機械 ムネーメー(投擲マシン)》
(福島県立福島工業高等学校制作)
2019年 (撮影：表恒匡)

4. そのプロジェクトの一環として、**やなぎみわ構成・演出によるライブパフォーマンス『MM』**を上演。
4つの機械が動き、俳優が演じ、そして生演奏が繰り広げられる。美術×機械工学×舞台美術がクロスオーバーする実験作!
構成・演出： やなぎみわ / 出演： 高山のえみ / 音楽： 内橋和久

5. やなぎみわの足跡を辿るため、《エレベーター・ガール》、《マイ・グランドマザーズ》、《フェアリー・テール》など、これまでの
代表作シリーズも展示。



《案内嬢の部屋 1F》1997年 京都市美術館蔵



《My Grandmothers YUKA》2000年 作家蔵



《Untitled I》2004年 作家蔵

6. 「1924」三部作（「Tokyo-Berlin」「海戦」「人間機械」2011-12年）や「ゼロ・アワー」（2013）、「日輪の翼」（2016～）など、
やなぎの舞台作品を資料や映像で紹介。



野外劇「日輪の翼」（原作：中上健次）2016年
（撮影：表恒匡）

やなぎみわ 略歴

1967年神戸市生まれ。1991年京都市立芸術大学大学院(工芸専攻)修了。1990年代半ばより、若い女性をモチーフに、CGや特殊メイクを駆使した写真作品を発表し、とりわけ、制服を身につけた案内嬢たちが商業施設空間に佇む《エレベーター・ガール》、2000年より女性が空想する半世紀後の自分を写真で再現した《マイ・グランドマザーズ》、少女と老婆が登場する物語を題材にした《フェアリー・テール》シリーズ等により国内外で個展多数。2009年第53回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表。2010年には福島県立美術館で開催された「胸さわぎの夏休み」展に出品。2011年本格的に演劇プロジェクトを始動。大正期の日本を舞台に、新興芸術運動の揺籃を描いた「1924」三部作を美術館と劇場双方で上演し話題を集めた。あいちトリエンナーレ2013にて上演した「ゼロ・アワー 東京ローズ 最後のテープ」は2015年アメリカ数か所を巡回した。横浜トリエンナーレ2014を皮切りにステージトレーラー・プロジェクトが立ち上がり、2016～17年には野外劇「日輪の翼」となって横浜・新宮・高松・大阪・京都への移動公演を行った。2019年秋、神戸において上演予定。また2018年高雄市美術館(台湾)の国際企画展に招待され、新作写真シリーズ《女神と男神が桃の木の下で別れる》等と発表した。



やなぎみわ氏（提供：熊野新聞）